

巻 頭 言

ヒューマンサイエンス第24号をお届け致します。本誌は本学の大学院生が自らの研究の成果を報告するとともに、それぞれに研究をさらに推し進めていくための研鑽の場として、院生たちが自主的に運営する研究誌です。

今年は未曾有のコロナ禍に見舞われ、本学でも遠隔授業を余儀なくされ、特に大学院生は研究もままならぬ状況が続きました。特に学位論文提出学年の学生にとっては、調査や臨床活動もさまざまな制約のなかで行わざるを得ず、論文完成には想像以上の苦労がありました。多くの教員が歯がゆい思いで見守っていたことと思います。そのような状況を経ながらも無事に発刊にこぎつけることができ、喜びもひとしおです。

今号では、博士前期課程2年生による修士論文の要約11編に加え、博士後期課程、博士前期課程、研究生、心理相談室研修生がそれぞれの研究の骨子やアイディアをまとめた研究ノートや報告18編、さらに本研究科教員である高岡素子先生のべにふうき紅茶についての論文、石谷真一先生の臨床的関わりの基本についての論文の2編の玉稿が寄せられました。所収の原稿のなかには、これからどのように結晶化していくか今後が楽しみな研究素案なども含まれておりますが、本学で取り組んでいる多彩な研究の一端が示されておりますので、ぜひご一読頂けましたら幸甚に存じます。

また、今年は大学院全体で倫理教育に特に力を入れて参りました。本研究科全領域の院生が集う必修授業『人間科学合同演習』では、初回の倫理教育に加え、投稿時の倫理的配慮の講義とディスカッションの時間を追加し、また「投稿時チェックリスト」を作成するなど内容をブラッシュアップし、学生一人一人の研究倫理意識の高揚につとめました。倫理的配慮は他者に対する思いやりとも言え、研究者はただ規範を守るだけでは不十分で、深い共感性と豊かな想像力を持つことが必要です。共感性の高い人格の涵養は本学のミッションステートメントでもあり、本学の永久標語「愛神愛隣」の精神にも通ずるものです。そのような自覚のもと、本研究科では、今後も引き続き倫理教育に注力して参ります。

最後に、コロナの影響を受け、人と人との繋がりが希薄となりがちな現代社会においてこそ、私ども人間科学研究科における4つの研究分野、「臨床心理学」、「人間行動学」、「健康科学」、「環境科学」での取り組みはwithコロナの時代を生き抜くためにますます重要になると確信致します。優れた専門性に根ざしつつ、分野を横断した本研究科の学際的な学びを通して、さらに意義深い研究が活発になされていくことを期待しています。

今後とも人間科学研究科をよろしくお願い申し上げます。

國吉 知子

(神戸女学院大学大学院 人間科学研究科 研究科長)